

【洞爺湖町】 校務 DX 計画

当町においては、校務支援システム「C4Th」を導入し、教員の負担軽減等を目指して、校務DX化を図っており、今後さらなる校務DX化の推進のため、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、次のとおり取組みを行う。

1. クラウドツールの活用

全ての教職員には、個人メールアドレスが付与されており、情報共有や連絡等にクラウドサービスが活用できる環境にある。教職員間や教職員と児童生徒のデータ共有等、クラウドサービスを活用している学校もあることから、他校でも使えるような活用の推進を図る。

また、教職員と保護者間の連絡事項や提出物などのデジタル化を進め、日常的に活用することを目指す。

2. 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムについては、オンプレミス型（役場庁舎に備え付けのサーバー）で運用しており、学校現場において、教育・保健・学籍・成績管理等、さまざまな校務で利用している。

今後、校務支援システムのクラウド対応が可能となった際には、先行する自治体の活用事例を参考に、導入に向けた検討を行っていく。

3. FAX・押印の見直し

FAX・押印の見直しを行うことで、ペーパーレス化や業務の効率化等、教員の働き方改革にも繋がることから、各関係機関や事業者等にも慣例の見直しを依頼するなど継続的に働きかけを行う。